

要 報

越前岬沖地震被害概報*

敦賀測候所

550.346

昭和38年3月27日早朝、越前岬沖におこった地震**は敦賀市よびその周辺では震度V（強目のVでVIに観測するには少し弱い）を観測したほどの強いものであったが被害は比較的少なく、地震による直接の死傷者のなかったのは不幸中の幸であった。

それでも、家屋の全、半壊、傾斜、道路のきれつ、土砂くずれ、ガラス戸の破損、墓石類の転倒などの被害をおよぼした区域は第1図に示すように主として敦賀湾、若狭湾の沿岸沿い約50kmにわたってゐる。

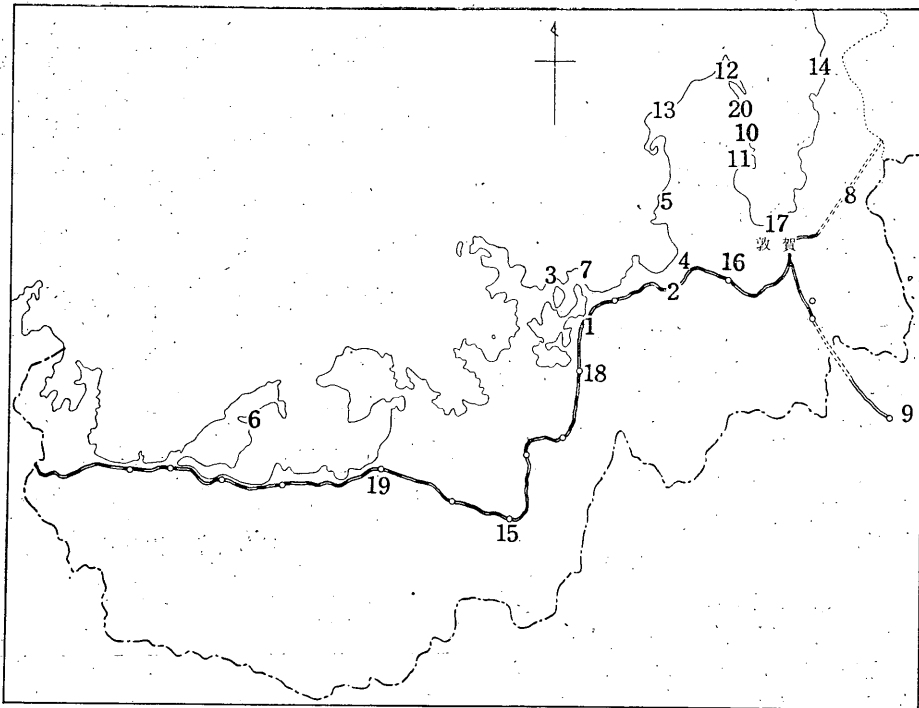
敦賀測候所管内における被害は第1図に示すとおりで震度や地震の規模からみて軽微な方だったが、敦賀より震源にやや近い美浜町、早瀬、日向地方では地盤と湖岸に建築した条件とで倒壊家屋他より多かった。

美浜町や旧敦賀市内より10kmも震源に近い敦賀半島北部の諸部落が軽微な被害だったのはもっぱら強固な花崗岩盤によるものである。旧敦賀市内では川崎、松栄、松島町などに比較的被害が多かったのはこれらの町が非戦災区域で建築物が古いのに原因するものであろうことは同町内でも新しい家は被害なく、被戦災区域の新築家屋もほとんど被害がなかったことから了解される。

なお、高浜、久坂、熊川地方では震度はIVで被害はほとんどなかった。

第1図における各地の状況は次のとおりである。（地点を示す番号は図中に附した番号）

- ① 国鉄 小浜線美浜——三方間道床に長さ6mにわたり幅2.5cmの割れ目ができ27日11時すぎま



第 1 図

* Tsuruga Weather Station : Damage Caused by the Earthquake off Cape Echizen on March 27, 1963. (昭和38年4月3日敦賀測候所発行“越前岬沖地震調査概報”より抜粋)

** 地震月報記載の震源事項は $\lambda=135^{\circ}46'E$, $\phi=35^{\circ}47'N$, $h=0$ km, $O=06^h 34^m 35.9^s$, $M=6.9$

で運転中止。後、一旦回復したが余震で再び18時まで運転中止。

- ② 国鉄 小浜線栗野——美浜間道床にも割れ目ができた。
- ③ 全壊家屋。美浜町日向で木造瓦ぶき2階建住宅

(20m²), 2階建住宅兼所 (27.3m²), 平屋建住宅 (21m² および 18.3m²), 船小屋 (19.8m²). このうち 20m² のものは日向湖に逆さになくなって没した. 納屋 2棟も湖水に倒壊.

半壊家屋 美浜町日向で木造瓦ぶき倉庫 (19.8 m²), 住宅 (54.4m²), 店舗 (17.5m²) 半壊.

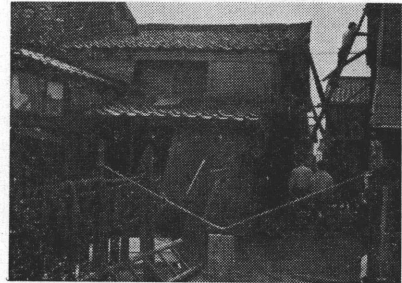
船着き場 美浜町日向でコンクリートづくりのもの40mにわたり湖水に沈む.

- ④ **国道** 27号線の関峠——佐田間で長さ20mにわたり約15cmの裂け目ができ, 30cmの段ができた.
- ⑤ **県道** 白木線菅浜——竹波間で延長50mにわたり土砂くずれあり通行不能.
- ⑥ **町道** 大島半島の畑区で幅3mの道路の両側石垣が数mにわたってくずれ通行不能.
- ⑦ **護岸** 県漁連早瀬支所前の護岸100mは各所にひびが入り10~30cm地盤が沈下, 同建物(561m²)は傾いた.
- ⑧ **トンネル** 北陸トンネル待避所の上部にきれつ入り, 水が漏る.
- ⑨ **トンネル** 第2野坂トンネル入口に25mmのきれつがあったが, 50mmぐらいに大きくなった.
- ⑩ 手ノ浦で2か所道路に裂け目.
- ⑪ 沓で1か所道路に裂け目.
- ⑫ **墓石など** 立石では前から傾いていたものが倒れた. 立石灯台官舎建具破損.
- ⑬ **墓石など** 白木では20~30%倒れ, 壁に割れ目でき, 柱時計は全戸の半分ぐらい止る. 戸のガラス割れる.
- ⑭ **国道** 旧8号線は山側から岩石くずれ, 長さ20mにわたり道路を埋め, 通行不能となる.
- ⑮ **水の濁り** 上中町天得寺の「瓜割の滝」は降雨でも濁らないが, 地震で濁流となる.
- ⑯ **家屋** 栗野小学校用務室壁3.3m², 土蔵壁, 住居壁23.2m²落下, 棟瓦3m破損.
- ⑰ 旧敦賀市の被害のほとんどは非震災地域の川崎, 松栄, 結城, 三島, 松島町に集中した. これらの町の建物が古かったためである. 特に川崎, 松栄では全壊, 半壊家屋, 倉庫をだし, 若干傾いたもの, 壁にきれつが入ったもの, 建具のガラス, ショーウィンドーのガラスの割れたものなど多かった.
- ⑱ 三方では石垣くずれ, 壁落ち, 塀が傾いた.
- ⑲ 小浜では防火用水の水があふれた.

⑳ 地すべりのため電柱倒壊, 高圧線断線.



松栄町 水戸烈士墓倒壊



松栄町 家屋倒壊



日向湖畔 家屋倒壊

一覧表を示せば次のとおりである.

(イ) 家屋の被害

	住 家		非 住 家		計
	全 壊	半 壊	全 壊	半 壊	
敦賀市		2	2		4
美浜町	2	2	1	2	7

- (ロ) 山くずれ……………1か所
- (ハ) 土砂くずれ……………3か所
- (ニ) 地割れ……………6か所

- (㊦) 地すべり……………1か所
- (㊧) 国鉄の道床被害……………2か所
- (㊨) トンネルの被害……………2か所
- (㊩) 護岸壁の被害……………3か所

養老牛地区の地震調査について*

根室測候所

550.346

1963年1月28日北海道東部に地震があり、その後、震源地に近い中標津町養老牛部落で余震が引続き、住民が不安を感じているので現地調査を依頼するという根室支庁長の要請で下記のとおり調査しましたので報告する。

調査日時 昭和38年2月20日

調査員 根室測候所 岩戸調査官
根室支庁 伊藤総務課主事
中標津町役場助役、産業課長
計根別支所長
計根別駐在巡查

調査概要

(1) 震源地付近は原野で冬季間は交通途絶の地域であるが、たまたま開発局でブルドーザーを通したあとであったため、車によってようやく養老牛部落に入ることができた。

(2) この部落が一番被害がひどいといわれた場所であったが、最近の建物(モルタル張り)をのぞいてはほとんどが開拓農家で、木造の建物自身が考朽しており、地震がなくとも傾いた状態の家が大部分である。

(3) 被害の概要

イ. 大きな家屋の被害はなくモルタル塗りの建物(3軒)に壁のひび割れ、一部剝脱の他は木造農家の軒が傾いたりした程度で、倒壊等のことはない。

ロ. サイロの一部にひび割れを生じ、危険なものは既にとりこわしてあった。

ハ. 一般家庭では戸棚その他家具の転倒により台所用品の破損が多かった。

ニ. 唯一の雑貨養でビン詰類の商品が転倒破損したのが被害額の大部分を占めている。

ホ. 開拓簡易水道の配水管の一部破損があったが現地

を見ることはできなかった。

ヘ. 近くの温泉温度が低下したというわさがあったが、現地に入ることは不可能な上、どこからその話が出たかも結局証言するものがいなかった。

ト. 飲み水がにごったという事実はあったらしいが、何時頃から始まって何時もとにもどったかなどを正確に記憶しているものはなかった。

チ. 地割れ、雪割れについて

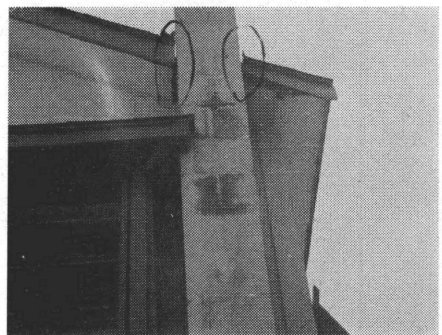
雪割れを生じたことは事実らしいが、調査当日にはその後の吹雪で、当時の状態を示すところはほとんど残っていないかった。1か所だけ西向き斜面の肩口のところにほぼ南北雪割れとそれに伴う地割れの一部を確認することができた。雪がとけて地割れに流れ込み、内面に凍結しているので正確な大きさはわからないが、開きは約5cm、深さ約30cmくらいで、判明した長さだけで約6mはあった。

(4) 付近の住民の体験談から

イ. たんす、本棚、テレビ、ミシン等が倒れ、ストーブがおどり出して煙筒がはずれ、水を一ぱい張った斗が



雑貨店のモルタル壁に生じたひび割れ。



集合煙筒と屋根の継目がはずれてしまった。

* Nemuro Weather Station : A Field Investigation of Earthquakes in Nakashibetsu, Hokkaido, in January and February, 1963 (Received April 20, 1963)